

梅鶯仙壯年末
各種行事日程

スリランカ（旧セイロン）
世界遺産の仏教遺跡を訪ねて④
副会長 森 勝昭

副会長 森 勝昭

7月23日（月）三日目

6時起床、7時朝食、8時出発
広大なホテルの庭を早朝散歩、
カレーのバイキング。

世界遺産アヌラダプーラの仏教遺跡へ。道は舗装されているが補修が行き届かず、ガタガタ道。



乗客は右の方を向いて座る。運転手は左の方を向いて運転する。道路はガタガタしている。

三菱ふそうパ
スにて移動、新
車並み？だ。



現実には理想的にはいきません。
アヌラダプーラは、人口100万人
スリランカ最古の都として栄え
た。

日本製のトヨタ・ホンダ・日産・スズキなどの中古車が8割方、パ

Ａ、昔なつかしいオート三輪車・リヤカー・運搬自転車など所せましと走っている。

山間部で、小学校の生徒集団をパスの中から見る、制服は上下真白、女の子はスカートにネクタイと揃っています。



この国は、小学校・中学校まで義務教育、公立学校は大学まで学費は無料で

誰でも門戸は開かれていますが、大学試験は難しいとのこと。

貧富の差が激しく家庭の事情で子どもでも家の仕事をしたり、町では路上で物売りをしている子どももあり

現実にはいきません。
アヌラプーラは、人口100万人
スリランカ最古の都として栄え
た。

お釈迦様のご成道の聖地ブツダ
ガヤから、アシヨカ王の王子によ
り伝えられたスリマハ菩提樹を参
拝。

現在のブツダガヤ大塔の菩提樹は再びこの地から株分けされたものです。

この町から、ピルマ・タイ・カ
ンボジアなどへと南伝仏教が広ま
りました。つづく



題材法話

東北の大震災から二年以上が経ちましたが、今なお大変な状況が続いており、復興までにはまだまだ時間がかかりそうです。特に福島原発事故について、根本的な解決の方向性を見えないまま、時が進んでいっているように感じます。最も高い価値である経済発展こそ、危険性よりも経済的利潤を優先させてしまつたことから、このようにまいりました。状況を招いてしまひました。私たちがひとつの欲望を満足させてしまつたと、ええ危険なことだと思つていても、なかなかそこに悩み苦しみます。争いが生じるのです。

○三毒の煩惱

欲望を満足させることに執着する。これを仏教では「貪欲」とんよく」と呼びます。貪る心です。を満たすことが上手にいかなければ、時には



激しい憎悪を燃やす。これを「瞋恚（しんに）」と呼びます。怒りの心です。生じるのが「愚痴（ぐち）」です。この「貪欲」「瞋恚」「愚痴」の三つを「三毒の煩惱」と呼び、そこからあらゆる苦悩が生じるのであり、それを浄化するところから、はじめると説くのが仏教です。

○念仏者の煩惱は？

出合ふと、この三毒の教えにはどうなるのでしょうか？ 南無阿弥陀仏の救いは、私達がお浄土に生まれては、様々と成らせて頂く教えです。から、それでは人間で、あることには変わりなく、煩惱が消えるわけではなく、また念仏は、自力の行でも、呪文でもありません。え、称えただけでも煩惱が消えませんか。

では私達は、なによう変わらないのでしょ



うではありません。親鸞聖人は80歳の頃に書かれた手紙の中で、念仏者の日常生活について、このようになります。

一もとは無明の酒に酔ひて、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒をのみ好みめしあう候。ひつるに、仏のちかひをききはじめしより、無明の酔ひもやうやうすこしづつさめ、三毒をもすこしづつ好まねし、好みあうて候ふぞかし。

少し意識読みしますと、一もとも私たちは無明といふ酒に酔つて、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒ばかりを好んで食べ合つて、貪欲・瞋恚・愚痴の本願にお会いして、阿彌陀様の無明の酔いもやうやく少しづつ醒め、三毒も少しづつ好まないようになつて、阿彌陀様の薬を常にものでも飲む身になつてくる。

○念仏者の社会実践

つまずき、酒に酔つて正体を失い、毒を毒とも思わずに食べ



阿彌陀様の大悲に呼び覚まされて生きるようになった。今は、次第に酔いが覚め始め、過ちを過ちと知らず、れ、三毒の煩惱も少しづつではあるが、慎むようになつて、お念仏を悦び楽しむようになった。

うことです。

たしかに私自身のことを振り返つても、お念仏を聞かせて頂いたからといつて、そんな立派な人間になつて、とはとても思ひ得ません。けれど聞かせて頂いているからこそ、少しでも「申し訳ない」「有り難い」との心が育てられているのかなと思ふことです。

このように考えますと、原発の問題を始め現代社会の問題を、一気に変えることなどはなかなか難しいことだとは思いますが、現代社会が酔いから醒めるためには、お念仏の繁盛こそが大切ではないかと思ふ。

7月例会

住職法話より

